

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和4年1月11日(2022.1.11)

【公表番号】特表2021-505611(P2021-505611A)

【公表日】令和3年2月18日(2021.2.18)

【年通号数】公開・登録公報2021-008

【出願番号】特願2020-531104(P2020-531104)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)
 A 6 1 K 45/06 (2006.01)
 A 6 1 P 43/00 (2006.01)
 A 6 1 P 37/02 (2006.01)
 A 6 1 P 29/00 (2006.01)
 A 6 1 P 7/00 (2006.01)
 A 6 1 K 31/4184 (2006.01)
 C 1 2 N 9/99 (2006.01)
 C 0 7 K 16/00 (2006.01)
 C 0 7 K 14/00 (2006.01)
 C 1 2 N 15/11 (2006.01)
 C 1 2 N 15/113 (2010.01)
 C 1 2 N 15/115 (2010.01)
 C 1 2 N 9/12 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00
 A 6 1 K 45/06
 A 6 1 P 43/00 1 1 1
 A 6 1 P 37/02
 A 6 1 P 29/00
 A 6 1 P 7/00
 A 6 1 K 31/4184
 A 6 1 P 43/00 1 2 1
 C 1 2 N 9/99 Z N A
 C 0 7 K 16/00
 C 0 7 K 14/00
 C 1 2 N 15/11 Z
 C 1 2 N 15/113 Z
 C 1 2 N 15/115 Z
 C 1 2 N 9/12

【手続補正書】

【提出日】令和3年11月30日(2021.11.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

対象における疾患の治療または予防での使用のための受容体相互作用セリン/スレオニ

ンタンパク質キナーゼ 1 (R I P K 1) 阻害剤を含む医薬であって、該疾患は B 阻害剤 (I B) キナーゼ (I K K) / 核因子 B (N F B) - シグナル阻害剤での対象の治療による副作用として引き起こされる病理学的または無秩序な免疫応答である、医薬。

【請求項 2】

疾患が、I K K / N F B - シグナル阻害剤での対象の治療による副作用として引き起こされる全身性好中球増加症または増加したインターロイキン - 1 (I L - 1) 放出である、請求項 1 に記載の医薬。

【請求項 3】

対象が炎症性疾患に苦しむ、請求項 2 に記載の医薬。

【請求項 4】

治療または予防が、R I P K 1 阻害剤および I K K / N F B - シグナル阻害剤の両方の治療有効量の対象への連続的または同時の投与を含む、請求項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の医薬。

【請求項 5】

I K K / N F B - シグナル阻害剤が I K K 阻害剤、または I K K 2 / I K K 阻害剤である、請求項 2 ~ 4 のいずれか一項に記載の医薬。

【請求項 6】

R I P K 1 阻害剤が、小分子、ポリペプチド、ペプチド、糖タンパク質、ペプチド模倣物、抗原結合タンパク質 (A B P) (ここで A B P は、抗体、抗体様分子または他の抗原結合誘導体、またはその抗原結合断片に代表されるもの)、ペプチド核酸 (P N A) などの核酸の変異体または誘導体、CRISPR/Cas9 コンストラクトなどの標的遺伝子編集用の遺伝子コンストラクト、および / またはガイド核酸 (g R N A または g D N A) および / または tracrRNA を含む、DNA または RNA のような核酸、または、アンチセンスまたは阻害性の DNA または RNA、リボザイム、RNA または DNA アプタマー、RNAi、siRNA、shRNA などから選択される、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の医薬。

【請求項 7】

炎症性疾患の予防または治療に使用するための I K K / N F B - シグナル阻害剤を含む医薬であって、該予防または治療は I K K / N F B - シグナル阻害剤および R I P K 1 阻害剤の同時または連続の投与を含む、医薬。

【請求項 8】

R I P K 1 阻害剤が請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の医薬である、請求項 7 に記載の医薬。

【請求項 9】

I K K 阻害剤、または I K K 2 / I K K 阻害剤である、請求項 7 または 8 に記載の医薬。

【請求項 10】

炎症性疾患の治療または予防に使用するための組み合わせを特徴とする医薬であって、該組み合わせは、R I P K 1 阻害剤および I K K / N F B - シグナル阻害剤を含む、医薬。

【請求項 11】

治療または予防が、炎症性疾患に苦しむ対象への I K K / N F B - シグナル阻害剤の治療有効量の投与を含む、請求項 10 に記載の医薬。

【請求項 12】

治療または予防が、対象への I K K / N F B - シグナル阻害剤の投与によって引き起こされる副作用を抑制または防ぐために、対象へ R I P K 1 阻害剤の有効量を投与することを含む、請求項 10 または 11 に記載の医薬。

【請求項 13】

R I P K 1 阻害剤が請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の医薬であり、および / または、I K K / N F B - シグナル阻害剤が請求項 7 ~ 9 のいずれか一項に記載の医薬である、請求項 10 または 11 に記載の医薬。

【請求項 14】

疾患の治療または予防に使用するための医薬組成物であって、該疾患が、対象の I K K 阻害剤治療の副作用、または増加したインターロイキン - 1 (IL-1) 放出または全身性好中球増加症であり、該医薬組成物は請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の医薬、および / または請求項 7 ~ 9 のいずれか一項に記載の医薬、および / または請求項 10 ~ 13 に記載の医薬を、薬学的に許容される担体および / または賦形剤と共に含む、医薬組成物。